

## 設立趣旨書

特定非営利活動法人グリーフサポート・リヴ

設立代表者 佐藤 まどか

### 1 趣旨

人生には様々なライフイベントがあり、その度に人はステージを変化させながら生きています。何らかの出来事があり、それまでのステージに終わりを告げる時には、別れの痛みを伴います。自死・犯罪・事故・災害・病気などでの死別、そして離別など、とりわけ大切な人やペット、物との別れの悲しみは大きく、生きることが苦痛に感じることもあります。

大きな別れがあった家族は、それぞれ個別の悲しみや辛さがあり、家族間では分かり合うことが難しく、意図せず傷つけあうことも起こります。また、突然の環境の変化に社会からの孤立を感じることもあります。これまで行ってきた自死遺族支援、シングルマザー支援のグループや個別相談などでは、「死別・離別後に死を意識した」ことや、「子どもと一緒に死のうと言った」ということが語られることが多くありました。また、自死遺族の語りの会を実施してきた中で聞かれた「社会に戻ってきた気がする」という言葉は、彼ら彼女らが「孤立」していたことを物語っています。

そんな死別・離別などのグリーフを体験した大人・子どもとその取り巻く環境に対し、働きかけと調整を行うことで、本人の生きる力をサポートし、どのような立場の人でも「あるべき姿」を押しつけられることなく、その生き方や自己決定が尊重される社会づくりに寄与するために、特定非営利活動法人グリーフサポート・リヴを設立しました。周りのサポートによって、つながりがあること、少し先の未来に希望を持つことで「明日を生きてみよう」と思うことが出来るようになるのではないのでしょうか。

今回、特定非営利法人格を申請するに至ったのには、任意団体としてこれまで実施してきた様々な活動を発展させるだけでなく、継続的に推進していくために、社会的に認められた組織にすることが重要であると考えたためです。

法人化することにより、これまで以上に多分野の関連団体との連携も広くはかることができ、地域社会や医療や福祉などとの連携も可能になります。そして、今なお「あるべき姿」になれずに苦しんでいる人たちの力になれると考えます。

### 2 申請に至るまでの経過

「シングルマザーの会」主宰（佐藤・徳永）

2001年5月「親の自死を語る会」主宰（佐藤）

2010年6月「パートナーを亡くした方の語りの会」

「自死遺族の家族調整カウンセリング」

「自死遺児のための遊びのワーク」主宰（佐藤・徳永）

2010年12月自死遺族支援弁護団主宰（生越）

2010年1月～12月「大人になった自死遺児の聴き取り調査」実施（佐藤）

2011年3月自死遺族支援弁護団無料法律相談実施（生越）

以上、これまでの活動を通じ、グリーフサポートの必要性を痛感し佐藤・徳永の2名で新団体設立を決意。他にも賛同者を得て、2021年8月7日設立総会を開催。